

平成29年度 研究テーマ

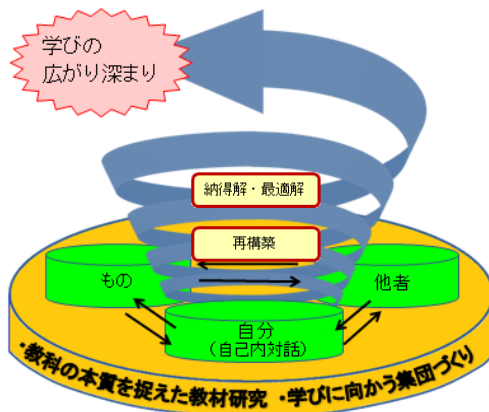
## 子供の学びを広げ深める授業づくり ～「対話的な学び」に着目して～



今年度は、「対話的な学び」に着目して授業を分析し、「対話を充実させることが主体的・対話的で深い学びの実現と授業改善につながるか」を省察してきました。研究員の考えをまとめました。

### 研究員が考える対話的な学び

「もの」、「他者」、「自分」との対話を通して自分の考えと他の考えとの違いを比較しながら思考を再構築させていき、納得解・最適解を得ながら考えを広げ深めていく学び。



◆「もの」との対話

= 教科書、資料等の教材や事象等との対話

◆「他者」との対話

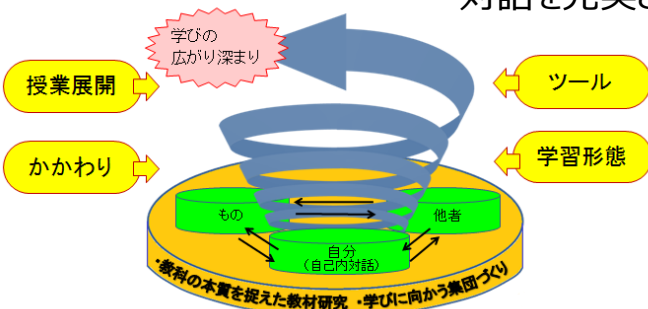
= 子供同士、教師、地域の人等との対話

◆「自分」との対話（自己内対話）

= 自分の知識や経験、疑問、気付き等を関連づけたり整理したりしながら思考を再構築していく「自分の内面」における対話

学習活動の中で「もの」や「他者」との対話が起こると、同時に自分の中でも既習の知識や経験と他の見方や考え方が結びついた「自分」との対話（自己内対話）が起こります。このような自己内対話は、新しい気付きや視点を生み出し、自分の考えをより確かなものへと再構築させていきます。そして納得解・最適解が導き出されていきます。「もの」や「他者」との対話は自己内対話を深化させていき、学びの広がり深まりを生み出していきます。

### 対話を充実させていく教師の『しかけ』



#### 『しかけ』の作用

既習事項等と関連付けながら問題解決のために必要な見方や考え方が、授業が展開されていくにつれて見出されていく。

自己内対話によって再構築されていく思考を言語化（アウトプット）する機会が繰り返し生まれていく。



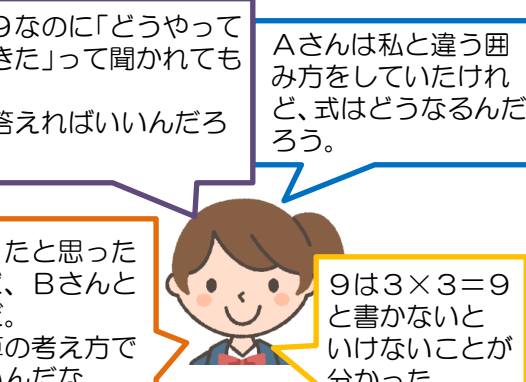
子供の思考のズレを生み出し、課題と正対しながら根拠に基づいて多面的・多角的に考えていく。

自分が獲得したことや考えたことをその都度振り返り、学びや変容を自覚していく。

対話を充実させていくための『しかけ』= 「授業展開」・「かかわり」・「ツール」・「学習形態」を適切に仕組んでいくことが大切です。

仕組んでいく方法は子供の実態や授業の展開によって様々ですが、どの授業においても『しかけ』が右のような学びの連続を生み出すように作用していくことで、対話による学びは一層広がり深まっています。

「もの」「他者」「自分」との対話は、学習活動の様々な場面で起こります。「対話的な学び」に着目して授業を分析し省察した結果、教師の手立てとそこから生まれる子供の学びについて、3つの授業から対話が充実している事例を紹介します。

	教師の手立て	事例	子供の学び
「もの」との対話	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入の場面では、学ぶ必然性のある課題や場面の設定をして、子供の問いを引き出し、多様な意見を生み出させる。</li> </ul>	<p>中学校 2年生 理科</p>  <p>思ったより飛んだなあ。</p> <p>どうやったら飛ぶん？</p> <p>なんで飛んだんやろ。</p> <p>空気がいっぱい入ってあふれたから？</p> <p>水に押されたから？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を自分事にして主体的に取り組むことができる。</li> </ul>
「他者」との対話	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題について考える場面では、子どもを様々な「もの」や「他者」とつなぐ交流の機会を設け、多面的・多角的に考えさせる。</li> <li>「もの」や「他者」との対話をつなぎながら切り返しを行う。</li> </ul>	<p>小学校 2年生 道徳</p>  <p>①「だめだと思ったから」って何がだめなのかな。</p> <p>②れいじさんが泣いていることかな。</p> <p>③二人だけがゲームをしていたからだよ。</p> <p>④二人だけが楽しんでいたらだめだって、たくやさんは気づいたんだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者との共通点や相違点から思考を活性化させ、根拠を明らかにすることができる。</li> <li>思考が揺さぶられ、深く考えることができる。</li> </ul>
「自分」との対話（自己内対話）	<ul style="list-style-type: none"> <li>「もの」や「他者」との対話の内容を振り返り、必要な時には深く考える時間を確保する。</li> <li>学んだ内容と共に、自己内対話の経過も書き記す習慣をつける。</li> </ul>	<p>小学校 2年生 算数</p>  <p>9は9なのに「どうやって出てきた」って聞かれても…。どう答えればいいんだろう。</p> <p>Aさんは私と違う囲み方をしていたけれど、式はどうなるんだろう。</p> <p>間違ったと思ったけれど、Bさんと同じだ。たし算の考え方もいいんだな。</p> <p>9は<math>3 \times 3 = 9</math>と書かないといけないことが分かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思考を自覚することができる。</li> <li>書き記すことで学びの足跡を残し、活用することができる。</li> </ul>

このように、教師が子供の意見をつなぎ、ねらいの到達へ導いていく活動と振り返りを切れ目なく繰り返すことで、子供たちは課題について何度も考え思考の再構築を繰り返すことができます。その思考を双方向にやりとりすることで対話的な学びが充実します。

そのためには、指導内容、子供の実態、育てたい力、研究主題などを詳細に分析し、実践、省察、改善していくような丁寧な教材研究を協働で行うことが欠かせません。また、自分の考えを思ったように発言でき、丸ごと受け止めてもらえる学級の雰囲気づくりに努め、あらゆる方向から対話的な学びを支える土台を強化することが大切です。